

フィリピン 神話と伝説

フィリピン 神話と伝説 (価値観を重視する) ガウデンシオ・V・アキノ

序文

フィリピンのさまざまな地方には、フィリピンの民間伝承の豊かな源があります。それらには、神話、伝説、叙事詩、物語、民族の格言、そして、そのほかの民間伝承の素材が含まれています。最初は、昔私たちの先祖が口伝えにしてきた、これらの民間伝承のさまざまな形が、話し手や情報提供者の口を通して現在まで伝えられ、私たちの文化遺産の重要な部分になってきました。著名なフィリピン人類学者である、F・ランダ・ホカノ博士によると、口伝えの文学の形としての、神話や伝説は、「超自然の存在や文化的英雄たち、世界を取り巻く物の始まりや説明などを取り扱う物語」と定義づけられるかもしれない。語ることによって、これらの物語は、世代から世代へ口を通して伝えられてゆき、そして、人間の社会生活のさまざまな面を通して、それらは、基本的な要素が人々の生活の哲学や、彼らの社会的、文化的、そして宗教的伝統の中心に組み入れられてきた、と彼は詳しく説明します。

ファンクとワグナルの「民間伝承、神話と伝説事典」は、神話について次のように定義しています。「過去のある時に実際に起こった出来事のように提示された物語で、人間や神々や英雄たちや文化特性、宗教的信仰などの宇宙論的、超自然の伝統を説明するもの。」同じ本は、伝説については次のように定義しています。「たぶん、人、場所、または出来事について話されて、伝統的な素材の混合物を用いて、事実に基づいた物語である。」

人類学者のラルフ・ビールスとハリー・ホイジャーによると、伝説というのは、言葉の内容において、神話とは違っているようです。彼らが言うには、伝説は「より世俗的である。たとえこれらの話に、彼らのすばらしい、畏敬の念を抱かせるような、超自然のものを含んでいたとしても。」それにひきかえ、神話は、より厳粛なもので、それらはより大きく「宇宙とそのさまざまな光景、火などの文化的に助けとなるものの起源、重要な食料、動物や植物の起源、死と病気の始まり、社会それ自身や一族、あるいは、他の社会の構成の起源、式典や儀式的起源」などを取り扱う、と言います。

ホカノ博士は、この観点から、神話と伝説を区別する線を引くことは難しい、と考えています。彼は、どちらの物語の形式も、関係者は神々、霊たち、そして超自然の力を持つ人間たちである、

序文

と説明します。そのようにして、彼らは神聖な性質を持ち、預言者たちや神々の道徳的な命令を説明するために役立てるのです。彼の視点からの神聖さの説明としての神話と伝説の真実性は、人間たちが、彼らの作り出した文化の理解と、作り出した文化の必要性に基礎を置いています。そのようなものとして、神話や伝説が、社会や文化を学ぶ学生に役に立つということは、議論の必要のないことです。この本の執筆者である私は、ホカノ博士の以下のような意見に全く賛成です。「もし、誰かがフィリピンの物語、神話、伝説、そして歌など、彼らの伝統を母体とするものを無視して、フィリピンの人々を理解しようとしても、それは望みのない不可能なことです。これらのこの地に生まれた言い伝えは、フィリピン人である感覚を与えてくれるのです。」

教育における過去の植民地制度は、長い間フィリピンの民間伝承を無視してきました。愛国心の到来は、しかしながら、出来事の道筋を変えてきました。わたしたちが、楽しく、読めるだけでなく独特に、フィリピン人である際立った品質と風味を持っているわたしたち自身の民間伝承、伝説、および神話を持っているというますます多くのフィリピン人との成長する認識が現在あります。この関連で、わたしたち一般の人々、特にわたしたちの学生たちが、愛国心を育てるためのひとつの方法として、わたしたち民衆のために民衆がおこなってきた、口伝えの、神話や伝説を読み、読むことを楽しむということがあるのではないかと思います。これらの物語を通して、わたしたちの伝統における活力や魅力、わたしたちの習慣の美しさあるいは弱さ、歴史的慣習や信念の独自性を、私たちの特異性の落とし穴や弱さ同様、発見するのです。とりわけ、これらの物語は、価値と行動の有益な学習を具体化してくれます。多くの話は、若い人々にどのように彼ら自身が行動するか、教えます。その教えはしばしば物語の中に隠されていますが。要するに、わたしたちは、豊かな文化遺産を持っています。そして、神話と伝説は、それらの中で欠くことのできないものなのです。それをわたしたちは誇れるし、子孫に残して、建設的な方法でそれを用いなければならないでしょう。

わたしたちの神話や伝説を用いる建設的な方法のひとつは、わたしたちの学生にそれらを提供することです。この考えにそって、中高生のための教科書として、この本は書かれてきました。教室で使うのを手助けするため、中等学校の学生にわかるような語彙の程度にするよう努力しました。これらの物語自身が、フィリピンの少年少女に、ほかの外国の少年少女たちがそうであるよう

フィリピン 神話と伝説

に、強い興味をそそらせるでしょう。それらは、変化に富む興味や、健全な好奇心、冒険心を与え、どのように物や動物や地域が現在わたしたちが知っているものようになってきたのか、知りたくなるでしょう。各物語の中に、メッセージや学習と同様に各話の精神や形式そして伝達内容など、保存のためにいろんな方法を採用しました。

この本には、50の神話と伝説があり、そしてそれらは、4つの部分に分けられます。第1部は、場所についての神話と伝説。第2部は、植物についての神話と伝説。第3部は、人々についての神話と伝説。第4部は、動物についての神話と伝説。それぞれの話には、一連の課題があり、それは学生の内容習得のためだけではありません。もちろんそれによって、新しい言葉を習ったり、中心的な考えを知ったり、読んだことについて理解すること、重要な詳細について記憶すること、要点を確認することなどは大切です。しかし、それだけでなく、価値の明確化と発展ということもあるのです。これらの課題は、示唆に富むものであって、規範的なものではありません。だから、教師は、その指導力と機知に富むことを用いて、自由にその材料をカリキュラムの目標と一致させ、学生たちの必要と可能性に一致させればいいのです。もちろん、教師が最高の判定者です。

著者はこれによって、E・アルセニオ・マヌエル教授に、深い恩義を感じています。彼は後期、私がフィリピン大学の修士号のために同系者としてフィリピンの民間伝承のコースをとった時に、彼は署名されて、貴重な知識と深い洞察と分担し、形を変えた天の恵みであると後で判明した民間伝承の素材の集まりについての彼の高く、動揺しない水準を示してくれました。進んで、無欲に、彼らの神話と伝説を共有した多くの情報提供者または物語の語り手に対し、そして、いずれにしろ、この本を現実のものにした多くの他の人々に感謝します。